

宮城県漁業士会報

海人

KAITO



第20号
令和3年3月
発行

宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町3丁目8-1(宮城県水産林政部水産業振興課内)
TEL022-211-2935 FAX022-211-2939

写真：松島湾ノリ漁場

漁業士会とは

漁業士制度は、次代を担う漁業後継者の育成・確保を目的として昭和六十一年度に国が制度化したものです。

漁業士になるためには、地域漁業を担う中核的漁業者として、宮城県知事から認定される必要があります、活動経験や年齢に応じて、「青年漁業士」と「指導漁業士」に区分されます。宮城県では平成二年に発足し、令和二年で三十周年を迎えました。

宮城県漁業士会は、認定された漁業士をメンバーとする団体です。北・中・南部の三支部に分かれ、研修会や先進地視察を通して会員自身の知識や技術を高めるほか、漁業後継者の育成や魚食普及活動等に取り組んでいます。

今後とも本県水産業の振興に向けて取り組んでいきますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【会員数（令和三年三月現在）】

青年漁業士 五十四名
指導漁業士 七十二名

会長のメッセージ

会長 千葉 周



会員の皆様におかれましては、日頃から本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

令和二年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛に伴い、単価の下落や売上げの減少など不安な思いをした方も多いかと思いますが、

漁業士会の活動においても、総会の書面開催や県外視察の延期など例年どおりの活動ができない状況でありました。

今後とも先行きが不透明なところではありますが、漁村地域の課題解決に向けて、連携・協力し、前向きに活動を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

宮城県漁業士会事務局

令和二年度は、青年漁業士六名、指導漁業士三名が新たに認定されました。

例年、県庁講堂で認定証交付式が開催されますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、式が中止となりました。そのため、各地方振興事務所から認定証と漁業士徽章が交付されました。新漁業士の皆様に抱負を語っていただきましたので、ご紹介いたします。



認定証交付の様子（南部支部）

青年漁業士（六名）

後藤 伸弥さん

（JFみやぎ志津川支所）



〈漁業種類〉カキ・ワカメ・ホヤ養殖
〈趣味〉釣り・卓球
〈抱負〉様々なことを学びながら、カキのPRや普及活動をしていきたいです。

佐々木 優太さん

（JFみやぎ志津川支所）



〈漁業種類〉カキ・ワカメ養殖
〈趣味〉釣り
〈抱負〉養殖業を個人で営んでいますが、皆さんと情報共有などを行い、協力して頑張っていきたいです。

三浦 正幸さん

(JFみやぎ志津川支所)



〈漁業種類〉カキ・ワカメ・ホヤ養
殖・漁船漁業

〈趣味〉釣り

〈抱負〉様々なことを頑張っていきたいです。

横山 正俊さん

(JFみやぎ石巻湾支所)



〈漁業種類〉カキ養殖

〈趣味〉釣り

〈抱負〉何事も新しいことにチャレンジしながら漁業をしています。今後の漁業に貢献できるように漁業者になれるように頑張ります。

青山 喜信さん

(JFみやぎ北上町十三浜支所)



〈漁業種類〉ワカメ・コンブ養殖

〈趣味〉ドライブ

〈抱負〉若手漁業士として、様々なことを勉強し、明るい未来を作れるように頑張っていきます。

佐藤 慎太郎さん

(JFみやぎ仙台支所)



〈漁業種類〉定置網・貝桁漁業

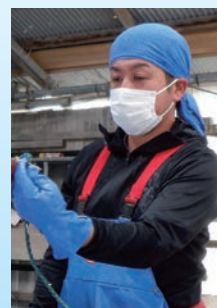
〈趣味〉登山

〈抱負〉定置網とアカガイ漁を行っています。来年からはシラス漁に挑戦したいと思っています。よろしくお願いします。

指導漁業士(三名)

小松 俊浩さん

(JFみやぎ気仙沼地区支所)



〈漁業種類〉カキ・ホタテガイ養殖、

採介藻

〈趣味〉水泳

〈抱負〉コロナ禍で世間が大変な中ではありますが、美味しいものをつくって、三陸の海の幸を届けていきたいです。

中井 裕紀さん

(JFみやぎ石巻湾支所)



〈漁業種類〉ノリ養殖

〈趣味〉釣り

〈抱負〉漁業士としての自覚を持ちながら、日々の仕事に取り組んでいきたいと思っています。

相澤 充さん

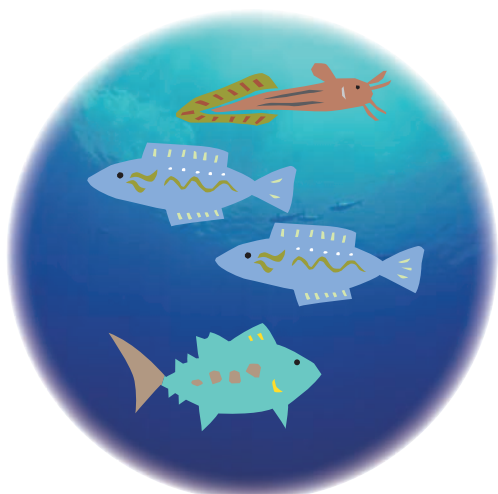
(JFみやぎ石巻湾支所)



〈漁業種類〉ノリ養殖

〈趣味〉書道

〈抱負〉これからも水産業の魅力を発信し、先進的漁業者として地域貢献もしていきたいと思っています。



浜のリーダー 見聞録

浜のリーダー見聞録では、様々な取組に挑戦している漁業士の方を各支部で取材し、その活動をご紹介します。今回は北部支部の高橋直哉漁業士、中部支部の豊嶋純漁業士、南部支部の菊地幹彦漁業士にお話を伺いました。

北部支部

高橋 直哉さん

(JFみやぎ歌津支所)



〈漁業種類〉

ホタテガイ・カキ・ワカメ養殖

〈主な活動〉

震災後、漁業体験活動や子供たちに地域の魅力を知ってもらう各種活動に取り組む。また、漁協青年部活動ではアワビの稚貝放流に積極的に取り組んでいる。

高橋漁業士は平成二十七年に青年漁業士に認定され、現在は北部支部の理事を務めています。

高校卒業後、会社員を経験した後に家業を継ぎ、南三陸町で養殖業を営んでいます。内湾と外洋の異なる環境の漁場で、カキ、ワカメ、ホタテガイ養殖及びタコ籠漁と一年を通じて漁業に携わっています。また、漁業の合間には、水産物を収穫し試食する漁業体験や、初心者を対象とした釣り体験など、一般の方々が南三陸の海に触れ合える体験活動も行っています。

漁業以外にも、子供たちを対象とした化石発掘体験や昆虫採集ツアーで講師を務めるなど、地域の取組にも率先して参加しています。漁業以外でも幅広く活躍している高橋漁業士のこれまでの取組についてご紹介します。

楽しく学ぶ漁業体験活動

体験活動を開始したのは震災後のことでした。当時は震災で奇跡的に流失しなかった船でワカメ養殖を営んでおり、併せて瓦礫撤去の仕事等をしていました。復旧も一段落した頃、ある程度時間に余

裕ができたので、船の定期運転も兼ねた体験活動を始めるようになりました。「南三陸の海で学び、海で遊ぶ」をテーマとして、初心者向け「釣り体験」と、水産物を収穫・試食する「漁業体験」を実施しています。体験活動を通じて、共販へ出荷するだけでは見えなかった実際の消費者の評価や、自分が作った養殖物を見て、触って、食べて喜ぶ反応を実感できることから、現在まで体験活動を続けています。また、自らの努力により、人より良い養殖物が生産で



漁業体験（ワカメ収穫）

き、それが評価される喜びが漁業を続ける原動力となっているとも話してくれました。

海で山で 魅力を伝える地域おこし

体験活動が続いているうちに、評判を聞いた南三陸町の観光協会から、地域ならではの体験企画について相談を受けるようになりました。その時に、歌津地域が震災以前から海洋生物の化石が出土する日本屈指の地域であり、復旧工事の際にも新種の化石が多数発見されていることから、子供向け化石発掘体験を提案しました。講師として子供たちに教えるために化石発掘の勉強をする中で、面白いように化石を掘ることができ、夢中になってしまいました。これまでに日本最古の魚類化石数種と新種の化石も3種類発見しています。今では大学と地域との橋渡し役という重要な役目も担っています。他にも、夜の虫採り体験など、地域の魅力を発見できるようなツアーを、仲間と協力して数々実施しています。

中部支部

豊嶋 純さん

(JFみやぎ石巻地区支所)



〈漁業種類〉
カキ養殖、漁船漁業
〈主な活動〉
家族で六次産業化に取り組んでおり、カキ等を使用した加工品を販売している。



化石発掘体験

漁業への想いとこれから

最後に、精力的に活動されている高橋漁業士に、今後挑戦したいことについて伺いました。「近年は海洋環境が変化していることから、新たな養殖品種への挑戦や県外の漁業者と交流し、情報交換等もしていきたい。伝統だけでなく、新しい技術や考え方も積極的に取り入れていき、仲間たちと協力しながら地域漁業を牽引していきたい。」と熱く語っていました。



豊嶋青年漁業士は、石巻市の荻浜湾でカキ養殖、漁船漁業を営んでいます。高校卒業後は民間企業に就職しましたが、東日本大震災を機に漁業者になることを決意し、カキなどの水産物を水揚げするだけでなく、六次産業化にも取り組んでいます。今回は、豊嶋漁業士の取組についてご紹介します。



六次産業化への挑戦

豊嶋漁業士は、漁業を営む中で、「生産するだけで良いのか」という疑問を抱き始めました。接客業の経験もあり、人と接することも好きだったことから、消費者と対面で販売してみたいという思いがありました。初めての試みになかなか踏み出せずにいました。

そのような中、漁業士の先輩でもある母の後押しを受け、六次産業化に挑戦することを決め、自身が養殖しているカキの商品開発を始めました。

商品開発を始めると、漁業者が加工業者のような高次加工を行うことの難しさを痛感しました。試行錯誤の末、漁業者だからこそできる、原料の良さを活かした加工を行うことで加工業者の製品と差別化することを決めました。現在は、カキの佃煮や蒸しカキなどを商品化しています。

販売会への参加と販路の確保

家族で製造した商品を販売するため、イオン幸町店やJAたなばたけ、みやぎ水産の日展示直売会

に出店し、カキの佃煮や蒸しカキ、コウナゴの佃煮の販売を開始しました。令和元年にはリボンアートフェスティバル(※)にも出店し、タコ飯の販売も行いました。出店した直売会はどれも大盛況でした。自身で対面販売に挑戦したことで、消費者の顔が見え、生の声を聞く機会が増えたため、「もっと良いものを作ろう」という気持ちが強くなりました。しかし、六次産業化に挑戦し始めた頃とは海洋環境や漁獲物も変化しており、新商品の開発や常時取引ができる販路の確保に苦慮するところもあります。

※宮城県の牡鹿半島と石巻市街地で開催される「アート」「音楽」「食」を楽しむことができるお祭り



JAたなばたけ直売会

いなかからいっしょに

豊嶋漁業士は、販路開拓と適正価格の設定について、漁業者もこれから学ぶ必要があると考えています。人件費等を加味した適正価格で販売することにより、新たな雇用の創出に繋がるとともに、漁業者の販売力も向上するのではないかと考えています。「六次産業化を足がかりに販売力の向上を図り、人脈を広げること、生産者と加工業者、販売業者が一つのチームになり、一人一人の能力を最大限発揮できる販売形態をつくりたい。」と語っていました。

「カキ養殖のプロを目指しているので、誰にも負けないカキを追求していきたい。」インタビューの中で、強く心に残った一言です。今後とも漁業士会の活動を通じて、漁業のプロの方達の活動をこれからも支援していきたいと思えます。



南部支部

菊地 幹彦さん

(JFみやぎ仙南支所(亘理))



〈漁業種類〉

ノリ養殖

〈主な活動〉

漁業士会では子ども食堂への食材提供等の食普及活動に積極的に参加。仙南支所(亘理)の運営委員長を務める。

菊地漁業士がノリ養殖業を営む亘理町荒浜は、阿武隈川から注ぎ込まれる栄養塩が豊かな漁場を有し、良質なノリの生産地として知られています。菊地漁業士は高校卒業後、家業であるノリ養殖業を継ぎ、四十年余りになります。

今回は、菊地漁業士が代表を務める「あらはま海苔合同会社」の設立までの経緯や現在の取り組みについてご紹介します。

「いっしょにまよめる」

平成二十七年一月、荒浜のノリ養殖業者が一つにまとまり、「あらはま海苔合同会社」を設立しました。菊地漁業士は創業以来、合同会社の代表を務めています。

合同会社の設立のきっかけとなった出来事が東日本大震災です。震災で荒浜のノリ養殖業者は壊滅的な被害を受けたことから、国の支援を受けることができた。「協業」という形態で再起を図ることとしました。協業を続ける中で、菊地漁業士は震災以前から漁船や施設を効率的に利用した漁業経営が必要と感じていたことから、何度も話し合いを重ねて、協業関係から、より組織的な漁業の実現のため、法人化することを決意しました。



あらはま海苔合同会社の加工場

繋がりを深める

合同会社では、乾ノリの共販出荷だけではなく、自社加工場で乾ノリを焼ノリや味付ノリに加工するなど新たに機械を整備して、ばら干しノリ等を製造しています。

また、地元の方々が荒浜で生産したノリを手軽に購入できる場をつくりたいとの思いから、令和二年六月に加工場に隣接した直売所をオープンしました。直売所を始めたことで、製品の感想や要望を消費者から直接伺う機会が増え、菊地漁業士は、生産者の意欲の向上にも繋がっていると手応えを感じています。



令和2年にオープンしたばかりの直売所

いなかであつて

全国的に漁業の担い手が減少する状況のなかで、菊地漁業士は、漁業が未経験の人や浜の外の人でも意欲があれば受け入れ、漁業者として育てていくことが重要だと感じています。また、海仕事だけではなく、ITや営業の分野が得意な人など、多様な人材を受け入れることで、漁業はさらに発展できる産業であると考えています。

震災という困難を乗り越え、それぞれの技術や経験をまとめながら、様々な商品開発にも積極的に挑戦する菊地漁業士のさらなる活躍が期待されます。



あらはま海苔合同会社のみなさん

トピックス

「みやぎ漁師カレッジ」が開催されました

宮城県漁業士会事務局

「みやぎ漁師カレッジ」長期研修及び短期研修が開催され、座学や漁業現場の講師として漁業士の方にご協力いただきました。

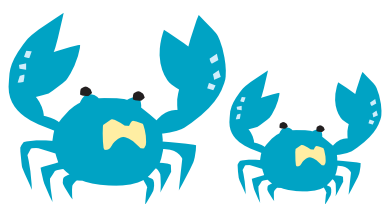
本県の漁業就業人数は、高齢化や後継者不足により減少の一途を辿っており、東日本大震災によりその傾向は一層顕著となつています。本県の漁業者数は、平成三十年現在で約六千二百人となっており、減少傾向にあります。このため、漁業の担い手となる後継者の育成、新規就業者の確保が急務となつていことから、県では「みやぎ漁師カレッジ」による七ヶ月の長期研修や三日間の短期研修を実施しています。

令和二年六月一日から始まった「みやぎ漁師カレッジ長期研修」では、県内から新規漁業就業希望者二名、漁業後継者三名の計五名が集まり、宮城の水産業の概要、漁業関係諸制度、ロープワーク等の

座学、ノリ・カキ・ワカメ・ギンザケ・ホヤ・ホタテ養殖、定置網等の現場研修を行いました。

また、研修の中で、漁師になるために必要な一級小型船舶操縦士、第二級海上特殊無線技士、フォークリフトなどの資格を取得しました。長期研修は令和二年十二月十七日に無事修了式を迎えることができました。新規漁業就業希望者の二名は東松島市のノリ養殖業、石巻市のワカメ養殖業に就業しております。

また、令和二年十一月二十七日から二十九日の三日間に開催された「みやぎ漁師カレッジ短期研修」では、県内から宮城の漁業に興味を持った九名が集まり、カキの水揚げや定置網の網起こし等を体験しました。



カキの水揚げ体験の様子（短期研修）



ノリ養殖研修の様子（長期研修）

「みやぎ漁師カレッジ」にご協力いただいた漁業士の方々をご紹介します。（順不同）

○長期研修

千葉 周 指導漁業士
尾形 一彦 指導漁業士

漁業士以外にも漁業士OB、漁業関係者、漁協関係者、水産業普及指導員など、多くの方々にご協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

県では来年度も「みやぎ漁師カレッジ」を開催する予定です。ご協力いただける漁業士の方がいましたら、事務局にご連絡ください。

「みやぎ漁業就業支援オンラインフェア」が開催されました

宮城県漁業士会事務局

宮城県が主催する「みやぎ漁業就業支援オンラインフェア」が、令和二年十一月十五日に開催されました。

このフェアは、新規就業について直接相談できる場を提供し、「漁業就業希望者」と「若い担い手

を確保・育成したい漁業者」のマッチングを図るため、平成二十九年度から毎年開催してきた漁業就業支援フェアin仙台を、新型コロナウイルス感染拡大を受け、初めてオンライン形式で開催したものです。当日は、県内外から二十三名の参加があり、出展した十二団体（県漁協、北部船主協会等）は漁業就業希望者に海の仕事の魅力を伝えていました。漁業士では、尾形一彦指導漁業士、二宮義秋青年漁業士が参加しました。

来年度以降も同フェアを開催予定です。興味のある漁業士の方がいましたら、事務局にご連絡ください。



オンラインフェアの様子

青年漁業士

養成講座について

宮城県漁業士会事務局

県が主催する「青年漁業士養成講座」が令和二年八月十九日・二十日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

本講座は漁業士としての活動するために必要な知識を身につけるためのものです。当日の受講者は七名で、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会会長からの基調講演等の講義を熱心に受講していました。受講者の皆様が今後漁業士に認定され、ご活躍することを期待しています。

○受講者の方々

阿部 弘幸さん
（JFみやぎ谷川支所）
米倉 和久さん
（JFみやぎ谷川支所）
石森 亘さん
（JFみやぎ谷川支所）
渥美 建さん
（JFみやぎ谷川支所）
渥美 政雄さん
（JFみやぎ谷川支所）

阿部 誠二さん
（JFみやぎ谷川支所）
赤間 俊介さん
（塩釜市漁業協同組合）



千葉会長（前列右から2番目）と受講生の皆様



青年漁業士養成講座の様子

第十九回宮城県青年・女性漁業者交流大会の開催について

宮城県漁業士会事務局

令和二年八月二十四日に東部地方振興事務所（石巻合同庁舎）を会場として、第十九回宮城県青年・女性漁業者交流大会が開催され、青年グループ三団体、女性グループ一団体の計四団体から日頃の活動実績が報告されました。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、審査員と発表者のみの参加となりました。

大会当日は、千葉会長が審査員として出席しました。

①漁師が育てるナマコ種苗

～簡易手法による種苗生産～

試験への取り組み

JFみやぎ石巻市東部支所
漁業研究会

鈴木 一樹

②龍宮会「島おこし」の流儀

～ヒトと島とを繋ぐ～

架け橋となれ

JFみやぎ気仙沼地区支所
大島青年龍宮会

小松 博文

③Stop!「魚離れ」

～こども食堂で美味しく・楽しく魚食普及～

宮城県漁業士会南部支部

齋藤 裕

④女性の力で浜を元気に

～魚食普及活動を通して、地元水産物のおいしさを伝えたい～

JFみやぎ七ヶ浜支所
女性部 佐藤 順子



交流大会の様子（齋藤漁業士）

いずれの発表も素晴らしいものでしたが、審査の結果、宮城県漁業士会南部支部及びJFみやぎ七ヶ浜支所女性部が最優秀賞を受賞しました。

最優秀賞を受賞した二団体は、令和三年三月に開催される全国大会へ推薦されることとなりました。

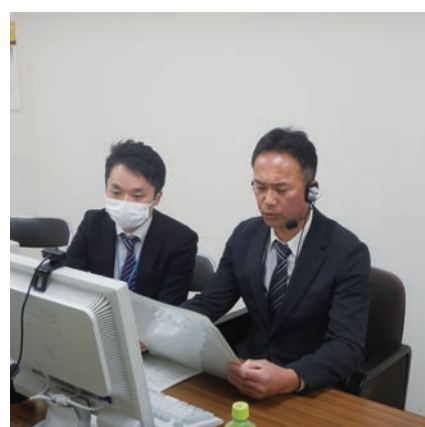
第二十六回全国青年・女性漁業者交流大会について

宮城県漁業士会事務局

令和三年三月二日に第二十六回全国青年・女性漁業者交流大会がオンライン形式で開催され、県大会で最優秀賞を受賞した二団体が活動実績を発表しました。

各都道府県の審査を勝ち抜いた全国の青年・女性漁業者が研究・実践活動を発表する場とあつて、どの発表もレベルの高いものでした。宮城県漁業士会南部支部からは、齋藤指導漁業士が子ども食堂における魚食普及活動について発表し、第三分科会（流通・消費拡大部門）において、最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。審査員からは、「社会貢献や魚食普及の観点から無償提供を続けていくという志の高さを感じる」「親子との交流を通して魚食への関心や共感を広げている」など高く評価されました。

本当におめでとうございます。



オンライン発表の様子（齋藤漁業士）

第四十回全国豊かな海づくり大会の開催について

令和二年九月に開催を予定としておりました第四十回全国豊かな海づくり大会は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和三年十月三日に延期となりました。

また、開催内容が一部変更となりますが、東日本大震災の際に全国からいただいた多くの支援への感謝の気持ちと、復興が進んだ本県の水産業の姿や自慢の「食」の魅力为全国に発信することを目的として、引き続き準備を進めております。

宮城県漁業士会としても会長が実行委員会委員の一員となっており、関係者一丸となって開催準備に取り組んでまいります。

退任漁業士のお知らせ

令和二年度末で認定期間が終了し、退任されました方は次のとおりです。

指導漁業士

○令和二年度任期満了

鈴木 章登さん

(JFみやぎ唐桑支所)

須藤 勉さん

(JFみやぎ志津川支所)

菅原 長弥さん

(JFみやぎ志津川支所)

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

令和二年七月豪雨被害に 対する熊本県漁業士会への 支援について

令和二年七月に熊本県を中心に豪雨被害がありました。昨年度発生した令和元年東日本台風（台風十九号）の際に被災地支援として熊本県漁業士会より、お見舞いをいただいておりますので、今年度は本県漁業士会より熊本県漁業

士会へお見舞いをお渡しいたしました。

熊本県漁業士会からは御礼と復興支援活動資金として活用することのご報告がありました。

今後とも他都道府県の漁業士会との交流を続けてまいりますので、よろしくお願いいたします。

「みやぎ水産の日」×

宮城県漁業士会

平成二十六年十月から宮城県により、県産水産物の消費拡大を図る取組の一環として、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と制定し、県漁協、市場関係や販売店等と連携して、水産物の魅力を発信する取組を行っています。

これに併せ、宮城県漁業士会としても各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会などの取組を行っています。

今後とも宮

城県漁業士は

「みやぎ水産の日」と連携した取組を展開していきます。



宮城県漁業士会ロゴマーク ご活用ください！

宮城県漁業士会では、漁業士の認知度向上（PR）と漁業士が生産した商品の付加価値向上を目的として、ロゴマークを作成し、その活用を推進しています。

ロゴマークのデザインは、「浜のリーダーが育てた美味しいもの」というキャッチフレーズと「浜のリーダー自慢の美味しいもの」の二種類があり、どちらのデザインもご利用いただけるようにしています。

宮城県漁業士会の認知度向上を目的とした取組（名刺、封筒、ホームページ、店舗の入口への掲示等）、商品パッケージへの使用、及び商品の販売促進等で幅広くご利用いただければと思います。使用規程や申請書、ロゴマークの電子データは宮城県水産林政部水産業振興課のホームページに掲載されております。詳しくは県漁業士会事務局又は所属の支部事務局にお問い合わせください。



浜のリーダー
自慢の美味しいもの



浜のリーダーが
育てた美味しいもの

海人 編集委員（敬称略）

北部委員 小野寺和義
中部委員 高泉 元幸（委員長）
南部委員 千葉 周

海人では、皆様からの原稿をお待ちしています。内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙二枚以内にとり、漁業士会事務局までお送りください。